

2013年(平成25年)10月9日 水曜日

山陽新聞

ちまた

読者のページ

食材の命の大切さ考えて

岡本颯弥 高2

(津山市)

最近、友達と弁当を食べているとき、友達が弁当に対する不満をもらす。「このおかず、嫌いだから残す」といった言葉を聞く度に、私はある経験を思い出すのだ。

私が中2のころ、食費を節約するために、狩猟免許を持っている父と狩りにでかけた。山に仕掛けたわなにはウリ坊が2匹かかっていた。狩りにきた私だったが、ウリ坊にとどめを刺すことはできなかった。その私のすぐそばで、父がハンマーで仕留めていた。私は思わず目をそらした。そして、普段食べている肉も、もともとは一つの命だったことを思い知ったのだ。

その日以来、私は食事について文句を一切言わなくなった。いつも何げなく食べている食材の命の大切さ、尊さ、ありがたさを、より考えるようになった。だから私は友達にも、食材になっている命のことを考えて、残さず食べてもらいたい。